

科目名	文学と人間				担当	長田 真紀				
形態	講義	単位数	2	開講時期	2年後期	実務経験	—			
必修	—					ナンバリング	KB103	DPとの 関連	(幼) 1 (総) 1・4・6	
授業概要	子ども時代への愛惜と訣別を描いた芥川龍之介と、子どもの病・障害・死などを児童文学の中で描いていった小川未明の作品を精読する。文学者だからこそ見えた子どもの世界について考察していく。									
到達目標 学習成果	一つひとつの作品を精読することで、文学作品を読解・鑑賞する力を養う。また、作家や作品の誕生が、その時代や社会と密接な関係をもっていると同時に、時間を越える普遍性を有していることを理解し、自らの今日的な問題として文学を考える姿勢を養うことを目標とする。									
授業計画	回	内容								
	1	文学を学ぶ意義	芥川と未明の作品を講読する意義についての説明							
	2	芥川龍之介の生涯とその時代	芥川の生涯とその時代・社会についての解説							
	3	「トロッコ」	「トロッコ」の作品世界についての解説							
	4	「白」	「白」の作品世界についての解説							
	5	「蜜柑」①	「蜜柑」前半の作品世界についての解説							
	6	「蜜柑」②	「蜜柑」後半の作品世界についての解説							
	7	芥川文学における子ども	芥川文学が表現した子どもの諸相についてのディスカッション							
	8	小川未明の生涯とその時代	未明の生涯とその時代・社会についての解説							
	9	「赤い蠟燭と人魚」	「赤い蠟燭と人魚」の作品世界についての解説							
	10	「月とあざらし」	「月とあざらし」の作品世界についての解説							
	11	「牛女」	「牛女」の作品世界についての解説							
	12	「金の輪」	「金の輪」の作品世界についての解説							
	13	「港に着いた黒んぼ」	「港に着いた黒んぼ」の作品世界についての解説							
	14	未明文学における子ども	未明文学が表現した子どもの諸相についてのディスカッション							
	15	文学に描かれた子ども	文学と今日の子どもをめぐる諸問題についての解説							
評価基準	文学作品の存在意義について理解し、作品を読解・鑑賞する力を養い、それが授業時のディスカッションや課題・レポートで述べられたかどうかを評価基準とする。									
評価方法	授業態度 20% レポート 60% その他 20% (授業内で指示する課題やディスカッションでの内容を評価)									
フィードバック 方法	課題やレポートは、採点后、授業中に返却。講評も付す									
アクティブ ラーニング	ディスカッション									
教科書	『蜘蛛の糸・杜子春』芥川龍之介／新潮文庫 『小川未明童話集』小川未明／新潮文庫									
参考書	『近代文学Ⅰ・Ⅱ』山田有策／学術図書出版									
履修条件	本講義を受講するにあたって必要となる基礎知識を有していること。少なくとも、芥川龍之介の『羅生門』と『蜘蛛の糸』は、事前に必ず読んでから履修すること。									
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習：授業時に提示する資料・文献は事前に必ず読み、理解しておくとともに、ディスカッションで述べる自己の意見や不明な点を明らかにした上で授業に臨むこと。授業で取り上げる芥川と未明の作品については、毎回必ず事前に熟読しておくこと。 (各回 1 時間) 事後学習：授業で扱われた内容を整理し、課題やレポート作成を進めていく。 (各回 30 分) 									
オフィスアワー	オフィスアワーの時間は、掲示板に掲示する。2階第 17 研究室									